

神のエコノミーの中で、主を畏れることの内在的な意義

聖書：箴 1:1, 7. 2:4-5. 3:5-10. 8:13. 9:10. 10:27. 14:2, 26-27. 15:16, 33 前半. 16:6. 19:23

I. 人が正常な人の生活をするための第一の原則は、主を畏れることと、主をあがめることです。主を畏れることは、主を怒らせることを恐れること、彼の臨在を失うことを恐れること、次の時代に褒賞を受けないことを恐れることです。わたしたちはこの時代に主の笑顔を失うことと、次の時代に彼の褒賞を失うことを恐れるべきです——箴 1:1, 7. エペソ 4:30. II コリント 5:9-10 :

A. 主を畏れることは、あらゆることで主を顧慮し尊重し、彼がわたしたちを創造されたすばらしい神であることを、決して忘れないことです（イザヤ 43:7）。主を畏れることは、わたしたちが悪を行なうことをやめさせます。主を畏れることはまた、わたしたちが他の人たちの苦難によって触れられ、彼らにあわれみと深い同情を示すようにします。

B. 主を畏れることは、罪から逃れることだけでなく、それにもまして、自己を拒絶することです。主を畏れることは、単にわたしたちが罪を犯したことやわたしたちがこの世的であることを恐れることだけではなく、わたしたちが行なっている事が主からではなく、自分自身からであることを恐れることです——マタイ 16:24. II コリント 4:5。

C. 神を畏れることは知恵の初めであり、聖なる方を知ることは英知です。知識、知恵、英知は神から来ます。わたしたちが神を畏れ、神をあがめるなら、これらはわたしたちの財産となります——箴 1:1, 7. 2:4-5. 3:5-10. 8:13. 9:10. 10:27. 14:2, 26-27. 15:16, 33 前半. 16:6. 19:23。

II. イザヤが予言したのは、エホバの霊（知恵の霊、聡明の霊、助言の霊、勢力の霊、エホバを知る知識の霊、エホバを畏れる霊）が、キリストの上にとどまるということ——イザヤ 11:1-2 :

A. その霊は絶えず主イエスと共にあり、彼と一でした。彼はその霊によって歩き、その霊の中で、その霊をもって、その霊によって、その霊を通して生活しました。イザヤ書第 11 章 2 節が見せているのは、主の人の生活において、その霊は上で述べられているすべての属性をもって現されたということです——ルカ 4:1, 14. 10:21. ヨハネ 1:32. マタイ 12:28。

B. イエスは彼の人々の生活において、主をあがめ、従順に畏れる霊で満たされていました。彼はまた主を畏れることを喜びました。彼は復活において今や、すべてを含む、あふれるばかりに供給するイエス・キリストの霊であり、エホバを畏れる霊です。この霊は、描写することのできない主イエスの人の生活と務めを含んでいます——イザヤ 11:2-3. ペリピ 1:19 :

1. かつてイエスほど神を畏れた人はいません。神の新約エコノミーを遂行したときに主イエスは告げましたが、彼は決して自分から何もせず（ヨハネ 5:19）、自分のわざを行なわず（4:34. 17:4）、自分の言葉を語らず（14:10, 24）、自分

の意志によっては何も行なわず（5:30）、自分の栄光を求めませんでした（7:18）。

2. イエスは生活において神の中で、神と共に、神のためにあらゆる事を行ないました。神は彼の生活の中におり、彼は神と一でした。これがイエスにあるあの実際です（エペソ 4:20-21）。実際の霊としての主がわたしたちを、彼の服従の命と、御父に対する彼の従順の命を経験することの実際の中へと導いてくださるよう、わたしたちは求める必要があります（ヨハネ 16:13. ピリピ 2:5-11）。
3. 日ごとにわたしたちは完全に、絶対的に御父に開き、彼がすべてを含む霊としての復活のキリストをもってわたしたちを満たしてくださるよう求める必要があります。この霊は主を畏れる霊でもあり、主イエスの人の生活と務めを含んでいます——ルカ 11:5-13。

Ⅲ. 神を畏れることは、神に信頼することです——箴 3:5-8, 26. 16:1, 9, 20, 33. 19:21. 30:5-6 :

- A. 箴言第3章5節から8節はわたしたちに、心を尽くして主に信頼し、自分の英知に頼ってはならないと命じています。わたしたちは自分のすべての道で彼を認めるべきです。そうすれば、彼はわたしたちの路を真っすぐにします。わたしたちは自分の目に賢い者となるべきではなく、主を畏れて、悪から離れるべきです。それはわたしたちの体にいやしとなり、わたしたちの骨に活力となります。
- B. 「エホバに信頼し、その信頼がエホバである者は幸いである。彼は水のほとりに移植された木のようになり、その根を川のそばに伸ばし、暑さが来ても恐れない。その葉は茂ったままで、干ばつの年にも心配することはなく、実を結ぶことをやめない」——エレミヤ 17:7-8 :
 1. 神のエコノミーによれば、神に信頼する者は、水のほとりに移植された木のようです。水が表徴するのは、生ける水の源泉としての神です—— 2:13。
 2. 木は川のほとりで、水のすべての豊富を吸収することによって生長します。これは神の分与によって完成される神のエコノミーの絵です。わたしたちは木として神聖な分与を受けるために、神を水として吸収しなければなりません——参照、 I コリント 3:6。
 3. 供給する神の豊富は、木としてのわたしたちの中へと分与されて、神の神性をもってわたしたちを構成し、わたしたちを成長させて神の度量へと至らせます（コロサイ 2:19）。こうして、わたしたちと神は一となり、同じ要素、本質、構成、外観を持ちます（啓 4:3. 21:11）。
- C. 言葉に注意する者は良きものを見だし、主に依り頼む者は幸いです（箴 16:20）。主がわたしたちの確信となり、わたしたちの足を畏から守ってくださいます（3:26）。
- D. 神を愛する者は、聖書の中で主に來ることによって、神を畏れることを学びます（箴 2:3-5. ヨハネ 5:39-40）。わたしたちが命じられているのは、神の言に対

して忠実に従い、また従順になって、わたしたちが神を畏れていることを証明することです（申 6:2）。

IV. 主を畏れることは、わたしたちが主を尊ぶことをも意味します：

- A. 箴言第 3 章 9 節から 10 節は、わたしたちがわたしたちの財産と、すべての産物の初穂をもって、主を尊ばなければならないと言います。そうすれば、わたしたちの倉は満ち満ち、わたしたちの酒ぶねは新しいぶどう酒で満ちあふれます。
- B. わたしたちは、さらに金をもうけて将来のために宝を蓄える者であってはなりません。少なくともわたしたちの産物の十分の一（初穂）は、神に与えられなければなりません。わたしたちは、神がわたしたちに与えてくださった物を与えるときは、常に、とても気前よくあるべきです。これが神を尊ぶことです——マラキ 3:7-12. II コリント 9:6-8。
- C. わたしたちは主に、わたしたちの心を単一にして、主の御名を畏れさせてくださるよう懇願すべきです、「エホバよ、あなたの道をわたしに教えてください。わたしはあなたの真理の中を歩みます。わたしの心を単一にして、あなたの御名を畏れさせてください」——詩 86:11。
- D. わたしたちは、「肉と霊のあらゆる汚れから自分を清め、神を畏れて、聖別を完成」する必要があります。ここでの神を畏れることは、神に属していないものや神と関係のないものにあえて触れないことです——II コリント 7:1. 6:17。
- E. キリストを畏れることは、かしらである彼を怒らせることを恐れることです。これは、わたしたちが互いに服従し合うことと関係があります。わたしたちは畏れをもって主に仕える必要があります。それからわたしたちは主を愛して、主の中で歓喜し、主を享受します——エペソ 5:18-21. 詩 2:11-12. ヘブル 12:28。
- F. わたしたちはみな神に対する適切な畏れを持つべきです。なぜなら、わたしたちキリストにある信者はみな、キリストの裁きの座の前に現れるからです。その時、キリストは再来して彼の信者たちを裁きます。それは彼らの永遠の救いに関してではなく、彼らの時代の褒賞に関してです——II コリント 5:10. I コリント 4:4-5. 3:13-15. ローマ 14:10。
- G. 主を畏れることは、命を長くする道です（箴 10:27）。神はご自身を畏れる者を愛し、救い、保護し、祝福し、供給します（詩 103:11, 13, 17. 85:9. 60:4. 箴 14:26-27. 詩 115:12-13. 34:9. 111:5）。
- H. 主を畏れる者たちの模範は、ノア（ヘブル 11:7）、アブラハム（創 22:12）、ヨセフ（42:18）、ダビデ（詩 2:11-12. 5:7）、ネヘミヤ（ネヘミヤ 1:11. 5:9, 15）、初期の召会です（使徒 9:31）。

V. 主に対する聖なる畏れは、実は喜びの源であり（詩 2:11）、命の泉であり（箴 14:27）、命の木であって（11:30）、神をわたしたちの中へと分与して、神のエコノミーを完成します：

- A. 主を畏れることは命の泉であり、人を死の畏から逃れさせます。主を畏れること、主に信頼すること、主の御名の中に避け所を得ることは、命の路を歩くこ

とです（箴 2:19. 5:6. 10:17. 14:27. 19:23. 詩 16:11）。命の路は、命の木の路であり、その源は神ご自身です（箴 3:13, 18. 11:30. 13:12. 15:4）。

B. 主を畏れることは命に導きます。命に導くのは、狭められた道です（少数の人の道であって、多くの人の道ではない）。命の路は、わたしたちが神の中に生き、こうして命に触れ、獲得するためです。これらの路は、わたしたちが彼の中へと入るために、神がわたしたちの心の中に置いた大路です——箴 19:23.

マタイ 7:13-14. 詩 84:5。

C. 死の道は、善悪知識の木の道であり、その源はサタンであって、それはわたしたちの自己において現されます。自己の中に生きることは、神の臨在を持たないことであり、暗やみの道に歩むことであり、命がないことです——箴 2:13.

3:5-7. 14:12. 16:25. エペソ 5:2, 8-9。

VI. 神はわたしたち彼の民に一つの心と一つの道を与えて、絶えず彼を畏れさせることを約束しました。それはわたしたち自身とわたしたちの後の子たちの幸いのためでした。また神はわたしたちの心の中に彼に対する畏れを置いて、わたしたちが彼から離れ去らないようにします——エレミヤ 32:39-40 :

A. わたしたち神の選ばれた人は、みな一つの心を持って、神を愛し、神を追い求め、神を生き、神で構成されて、神の表現となるべきです。またわたしたちは一つの道、すなわち内なる命の法則とその神聖な能力としての三一の神ご自身を持つべきです——エレミヤ 32:39. 31:33-34. ヨハネ 14:6 前半. ローマ 8:2。

B. この一つの心と一つの道は、一つ思いです（使徒 1:14. 2:46. 4:24. ローマ 15:6）。キリスト以外のものに対する心を持ち、キリスト以外の道を取ることは、分裂へと導きます。

C. 神は永遠の契約、すなわち新しい契約を結びました。この契約によって、神はわたしたちから離れず、わたしたちの心の中に彼に対する畏れを置き、わたしたちが神から離れ去らないようにします——エレミヤ 32:40。

D. わたしたちは神を畏れるとき、わたしたちが選ぶべき道について神によって示されます。そして神の親密な助言と彼の契約を知ることができるようになります。神を畏れる者だけが、神の契約についての神の啓示を持つことができます。神は彼を畏れる者だけに彼の親密な助言を与えます——詩 25:12, 14。

VII. 主を畏れることと主を愛することは、わたしたちの罪が赦されたことの二つのすばらしい結果です :

A. 神の赦しは、人を大胆で身勝手にはさせません。神の赦しの恵みは、人を主に対する畏れの中へともたらしめます。「あなたには赦しがあるので、あなたは畏れられます」——詩 130:4。

B. 神の赦しの恵みはまた、わたしたちに神を愛させます。ルカによる福音書における罪深い女が主を多く愛した理由は、彼女が主によって多く赦されたからです——ルカ 7:39-50。

C. 主がわたしたちを赦せば赦すほど、わたしたちはますます主を畏れます。またわたしたちは主を畏れれば畏れるほど、ますます主を愛します。消極面では、

わたしたちは主を畏れるので、主の喜ばない事を行ないません。積極面では、わたしたちは主を愛するので、主の喜ぶ事を行ないます。

VIII. 箴言第 31 章は、主を畏れる者の二つの模範をわたしたちに提示しています。一方で、わたしたちは主と同じような王（王族の男）のようになって、支配する権威を持つべきです。他方で、わたしたちは価値のある女となって、どのように神の家の中で案配し、管理し、顧み、聖徒たちの必要を供給するかを知っているべきです：

A. 箴言第 31 章 3 節から 9 節が語っているのは、支配する王、すなわちぶどう酒を飲まず、他の人たちの権利のために語り、公正を行なう人です（キリストと彼の勝利者を予表する）。このような人だけが王として支配することができます：

1. わたしたちの主は完全に神の制限の下にありました。このゆえに、彼は神のために王として支配することができました。わたしたちは神によって制限され、こうして自分自身を対処することができるなら、神のために王として支配することができます。

2. 民を支配することにおいて、王はまず神の言葉によって教えられ、規制され、支配され、制御されなければなりません。原則は、召会の長老についても同じであるべきです——申 17:14-20：

a. 長老は召会を統治し管理するために、神の聖なる言葉で再構成されなければなりません。その結果、彼らは神の管理の下に、神の規制と支配の下にいるようになります。

b. そうすれば自然に、神が彼らの決断の中にいるようになり、長老は神を代行して、召会の諸事を管理します。このような管理は神治です。

B. 箴言第 31 章 10 節から 31 節は、価値のある女について描写しています（12:4. 19:14. ルツ 3:11）。彼女は賢く、親切で、勤勉で、能力があり、また彼女の家を案配し、管理し、供給することができます。「彼女の価値はサンゴにはるかにまさる」（箴 31:10）。彼女の栄光はすべての同輩にまさります（29 節）。この価値のある女は、召会と、主を愛する聖徒たちを予表します。

1. 価値のある女の主要な特徴は、彼女が主を畏れているということです（うやうやしく主を礼拝し、主に従順であり、主に仕え、主に信頼し、主に対する畏れに満ちて主を敬う）。「好意は偽りであり、美しさはむなしい。しかし、エホバを畏れる女こそ、ほめたたえられる」——箴 31:30。

2. 価値のある女の夫の心は、彼女に信頼しています。「彼女は生涯のすべての日々、夫に善を行ない、悪を行なわない」（箴 31:12）。「彼女の夫はその地の長老たちの間で座していて、城門の内では知られている」（23 節）。

3. そのような価値のある思慮深い女は、主からであり、彼女の夫の冠です（12:4）。彼女の子供たちと夫は立ち上がって、彼女が幸いであると呼びます（31:28）。彼女の夫はまた彼女を称賛し、彼女が他のすべての者にまさっていると言います（29 節）。

4. 夫は自らの目で彼の妻の「神を畏れる純粋な生活態度」を見ることができ
べきです。彼女の飾りは、髪を編んだり、金を身につけたり、衣をまとった
りする外面的なものであるべきではなく、「柔和で穏やかな霊を朽ちない飾
りとする、心の中の隠れた人で」あるべきです。「これこそ、神の御前に極
めて価値のあるものです」—— I ペテロ 3:1-4。
 5. 正しい召会生活において姉妹たちは、「慎み深く落ち着きのある [自制のあ
る] 正常な服装で身を飾るべきであって、編んだ髪や金、真珠または高価な
服装によってではなく、むしろ、神を敬うと言い表す女にふさわしい良いわ
ざによって、身を飾」るべきです。神を敬うことは、神に対する畏敬、すな
わち神を崇拜し、あがめることです。これは神を礼拝する者にふさわしいこ
とです—— I テモテ 2:9-10。
 6. 老年の婦人は、振る舞い、すなわち態度において、うやうやしくあるべきで
す。「それは彼女たちが、若い婦人たちを訓練して、夫を愛し、子供を愛し、
冷静な思いを持ち、純潔で、家事に励み、善良で、自分自身の夫に服従する
者とならせ、神の言がそしられることのないようにするためです」——テト
ス 2:3-5。
- C. 勝利を得る面で、わたしたちは王のようであるべきです。主を愛する面で、わ
たしたちは価値のある女のようにあるべきです。このようであることによって、
わたしたちは主の御前で価値と栄光を持つようになります。